



園だより 12月

令和7年11月28日

千代田区立麴町幼稚園

園長 木村 恭子

秋から冬に向かう中で

園長 木村 恭子

日に日に朝の冷え込みが厳しくなり、暖かそうな上着に身を包んで登園する姿が目立つようになりました。今年はもうひとつ、道々拾ってきた落ち葉を手に、うれしそうに見せてくれる子が多く、朝の楽しみの一つになっています。赤や黄色に衣替えした紅葉は、誰の心も動かす秋ならではの贈り物。園でも様々な遊びで登場し、子どもたちの学びを豊かにしてくれる大切な自然の教材です。

11月の「とうきょうすくわくプログラム」でも、落ち葉が大活躍。造形指導者・木村桂子先生のご指導のもと、そら組は紙粘土のオーナメントづくりや版画、やま組はフロタージュ（こすり出し）に挑戦！今回もまた、目を輝かせて熱中しました。

固形絵具やバレン、コンテパステル等との初めての出会いが活動の魅力を引き立てると同時に、簡単にはできないからこそ面白さもありました。最初はいくらこすってもうまく葉脈の模様が出なかったのが、繰り返すうち、紙の上でコンテをひと滑りしただけでくっきり現れた瞬間の「できた!」という喜びは格別です。「もう一回!」「次はこっちの葉っぱ!」と、自ら経験の幅を広げる姿が生まれました。

発達と興味・関心がぴたりと合った、“面白い・できそう・もっとこうしよう”からの没頭の時間には、子どもがもつ力が自然と最大限に発揮されます。納得いくまでやりきり、成果を感じた経験は大きな自信となり、他の遊びや生活の糧にもつながるでしょう。子どもが夢中で遊びこむ姿に私たちが感動するのは、まさに成長の過程を目の当たりにしているからなのだと、改めて感じた活動となりました。



秋から冬にかけてよく晴れた日中は、空が高く澄み、戸外での活動がいっそう心地よい季節です。先日の「おそとでスポーツ」でも、冷たい風に負けず元気いっぱい走る姿がありました。5歳児そら組は、校庭が空いていると、朝から飛び出していきます。3学年混合グループで食した「なかよし弁当」も、食後は一緒に校庭へ出て交流を深めました。様々な遊具を使い、子どもたちの工夫次第で校庭遊びの幅もどんどん広がります。

先日実施した預かり保育のアンケートでも「体を動かす活動に積極的に取り組んでほしい」という声が複数ありました。園での運動遊びへの期待の高さがわかります。アフタースクールと連携し、預かり保育時間も、毎週定期的に校庭で安全に遊ぶ時間を確保します。私たちにとっては当たり前の生活の一部ですが、毎日、限られた時間でも広い校庭で思い切り走り回る環境が目の前にあることは、本当に恵まれたことと思います。



預かり保育での校庭遊び

これから寒さが増すにつれて、戸外遊びではまずしっかり体をほぐすことが大切です。筋肉の硬直からぎこちない動きになりやすく怪我につながることもあります。大人が留意するだけでなく幼児自身も意識をもち、体の仕組みを理解しながら安全に体を動かせるよう指導していきます。こうした知識や経験は、就学後の健康・安全の習慣にもつながっていくでしょう。

12月に入り、今年も残すところあとひと月となりました。「こどもかい」に向けた表現活動や、年末年始を意識した生活など、子どもたちとともに充実した毎日を積み重ねていきたいと思っています。